

## 弥生人が見た龍

長谷川一英

### 【講座の概要】

#### はじめに

私たちは「龍」と聞くとある姿を思い浮かべます。しかし、実際に龍の姿を見たことのある人はいません。弥生人として同じです。弥生人は見たこともない龍のことをどう考えていたのでしょうか。弥生人が残した絵画土器を手掛かりに迫ってみます。

#### 龍の誕生

龍が考え出されたのは今から8千年前の中国東北部といわれています。その姿は九似といわれ、体の色々な所が九つの動物に似ているとされています。また、インドでコブラを神格化したナーガが仏教とともに中国に伝わり、龍と習合し、ナーガが持つ天気を制する力が龍の天気や水を制する力になったとされています。災害を起こさないよう水を制し、天候を見極め、人々の生活を安定させることは国を治める者の務めであることから、水や天候を制する龍は神聖な生き物として王の権力と結びつき、王の象徴として、王の持ち物に表わされました。

#### 弥生人が見た龍

龍が日本列島に伝わって来たのは弥生時代後期です。弥生人は龍を土器に描きました。それまでの絵画土器の題材は弥生人が実際に見たものでした。それに対し、龍は空想上の生き物ですから、龍を十分に理解していないと描くことはできません。龍の絵画土器は全国の約80遺跡から見つかっています(図1)。龍は液体を入れる壺やそれを載せる器台に描かれ、それらは水に関わる所から見つかることが多いことから、弥生人の間には龍の表現方法だけでなく、龍が水に関係するということについても共通認識があったようです。弥生時代の農耕儀礼はムラの集団のオマツリであったものが、古墳時代になるとクニの王を中心とした政治的なオマツリへと変化します。農耕儀礼と密接な関係にあった龍を含めた絵画土器も急速に抽象化、記号化され衰退、消滅します(図2)。

しかし、龍は弧帯文に姿を変えたようです。龍が中国で王の権力と結びついていたように、弧帯文が首長の象徴となっていた可能性があります。その弧帯文を首長の葬送儀礼に用いられる特殊器台に刻んだのです。

#### おわりに

弥生人にとって重要な生業の一つであるである稲作に水は欠かせません。日照りや長雨、台風といった禍も何としても避けたかったはずです。水をくみ上げるポンプも、天気予報も無かった弥生人にとって、たとえ龍が空想上の生き物であろうとも、龍に頼るしかなかったのではないのでしょうか。今、私たちが龍は空想上の生き物だとわかっていながら龍神を拝むことがあるように、龍の絵からは弥生人の切実な願いがうかがわれます。

### 【参考文献】

大阪府立弥生文化博物館2009年『倭人がみた龍』大阪府立弥生文化博物館

永野 仁2014年「龍絵画土器小考」『弥生文化博物館研究報告第7集』大阪府立弥生文化博物館

長谷川一英2011年「『龍の描かれた土器』再考」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第3号』岡山市教育委員会

御津町教育委員会1992年『平岡西遺跡 I』御津町教育委員会



図1 龍絵画・記号文土器出土分布図

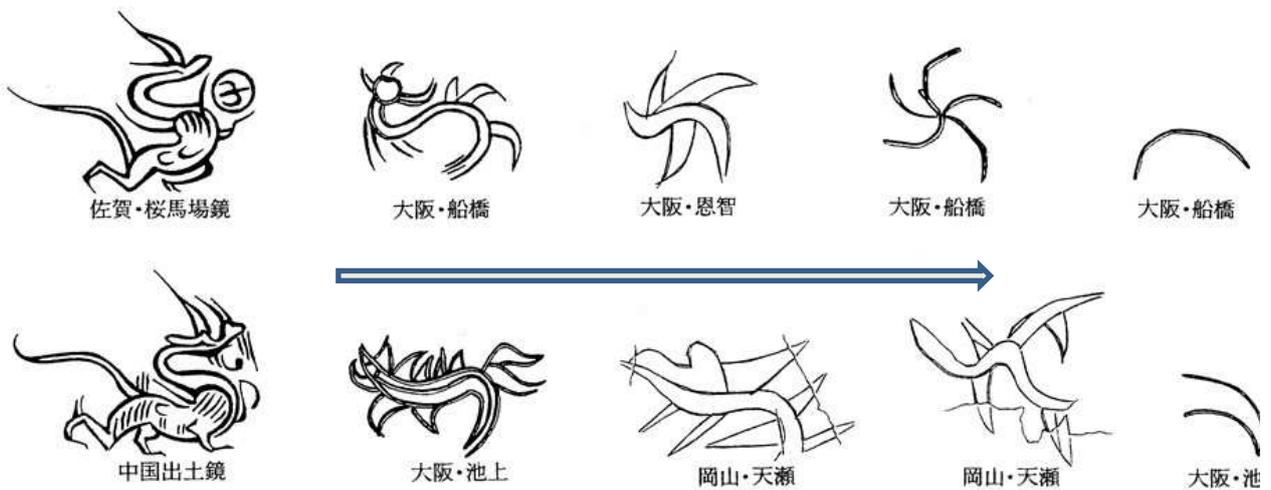


図2 龍の絵画の変化 1～2世紀

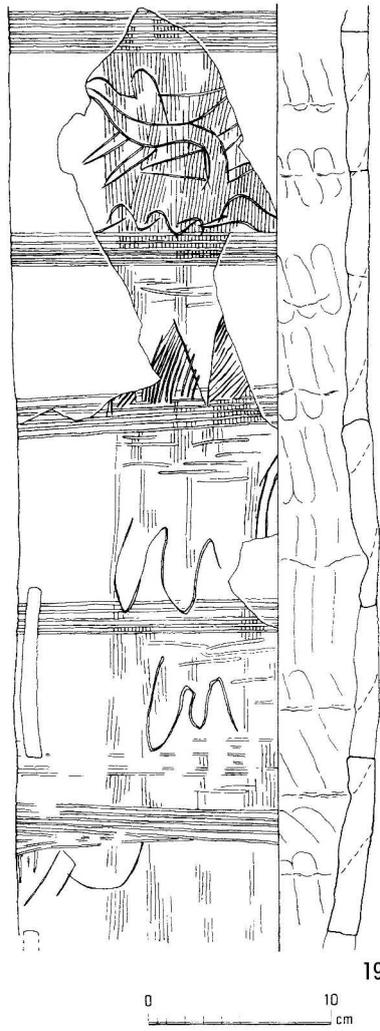
【図引用】

図1 永野 仁2014年「龍絵画土器小考」『弥生文化博物館研究報告第7集』大阪府立弥生文化博物館

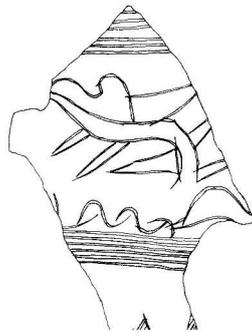
図2 春成秀爾1997年「稲祭りの絵」『原始絵画 歴史発掘⑤』講談社

図3 長谷川一英2011年「『龍の描かれた土器』再考」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第3号』岡山市育委員会

図4～8 御津町教育委員会1992年『平岡西遺跡 I』御津町教育委員会

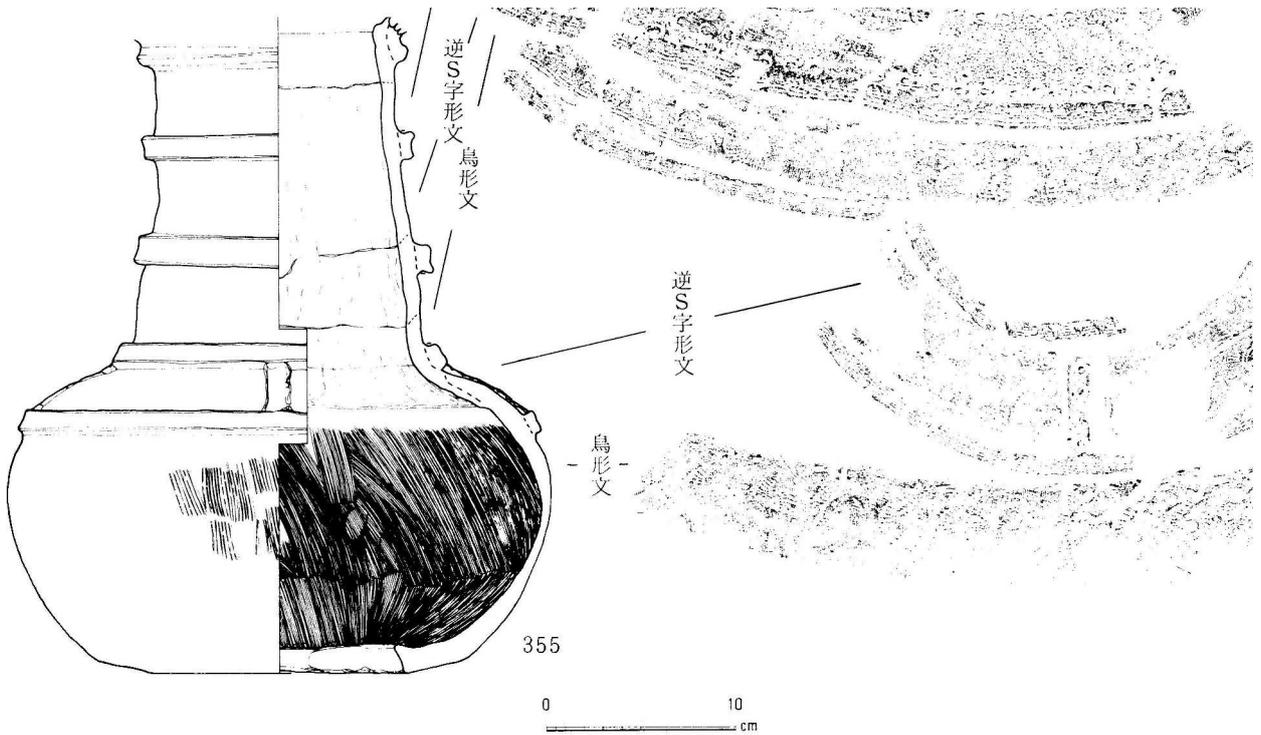


19



0 5 cm

図3 岡山市天瀬遺跡出土絵画土器 器台実測図



355

0 10 cm

図4 岡山市平岡西遺跡出土スタンプ文土器 壺1実測図

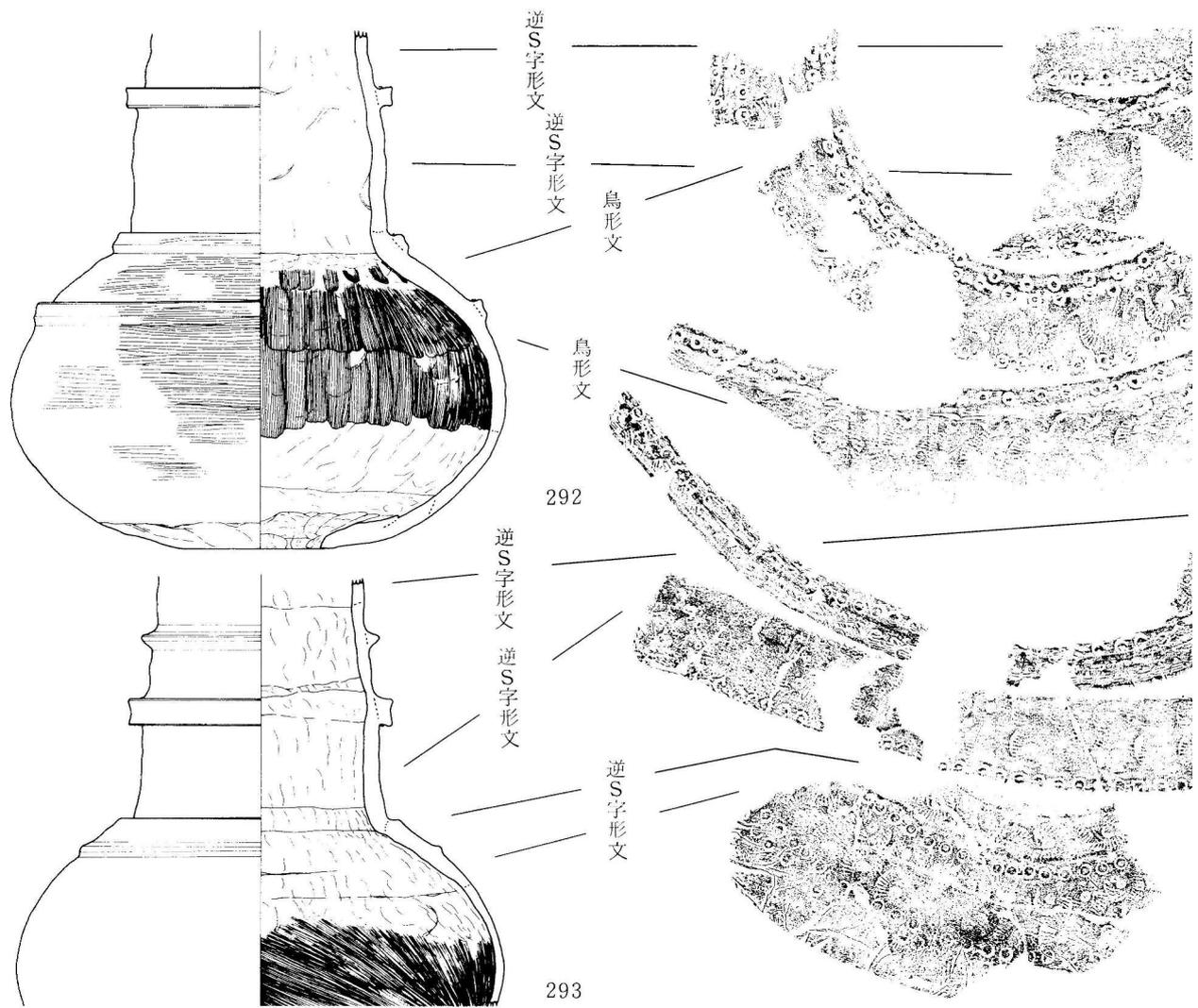


図5 岡山市平岡西遺跡出土スタンプ文土器 壺2・3実測図

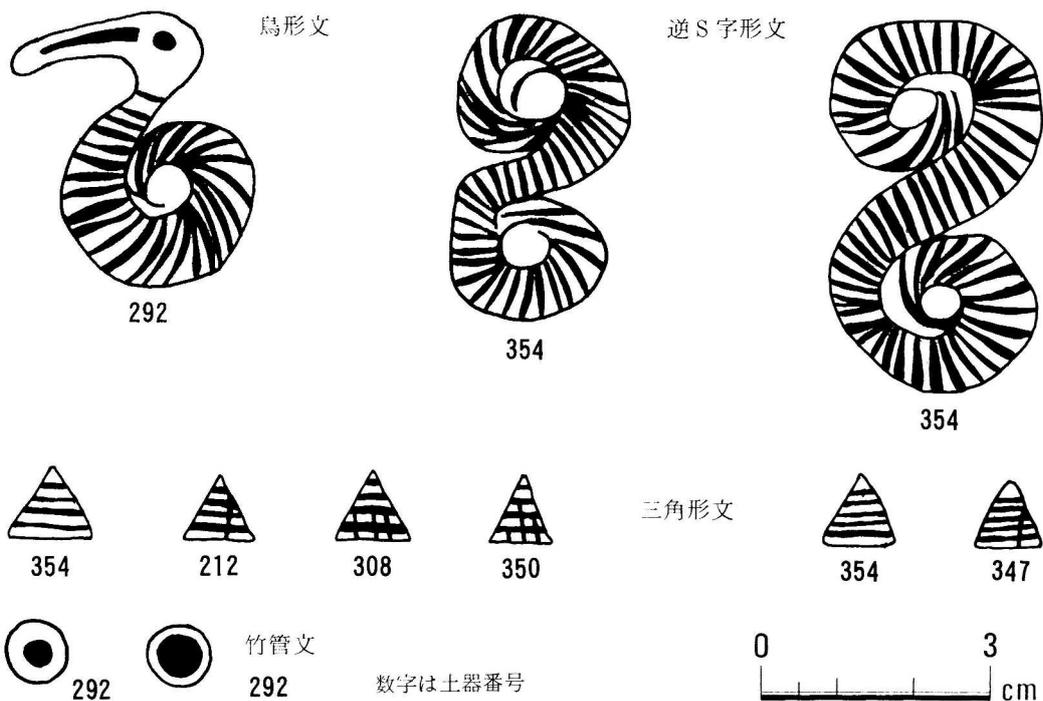


図6 岡山市平岡西遺跡出土スタンプ文土器 スタンプ模式図

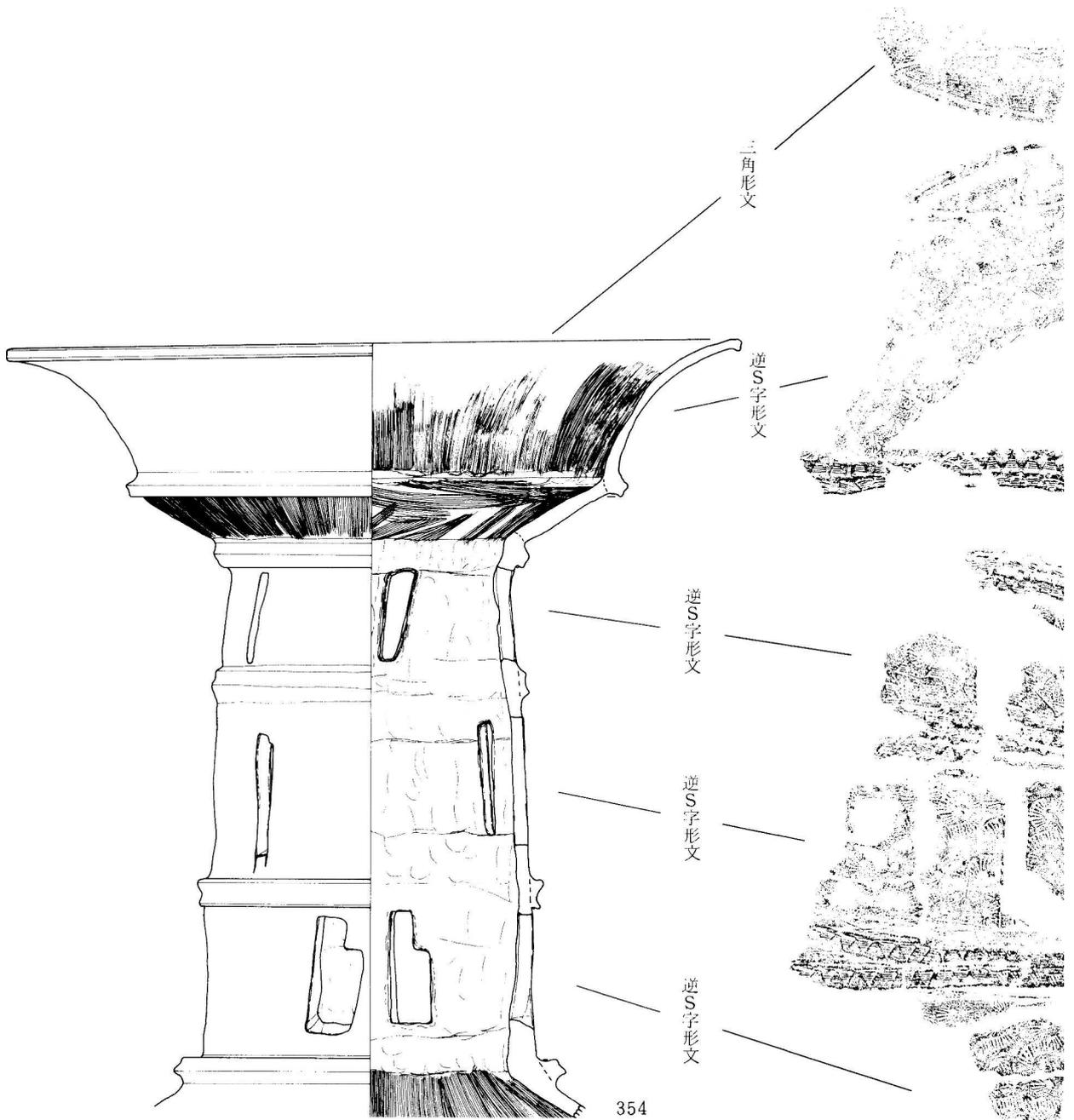


図7 岡山市平岡西遺跡出土スタンプ文土器 器台実測図

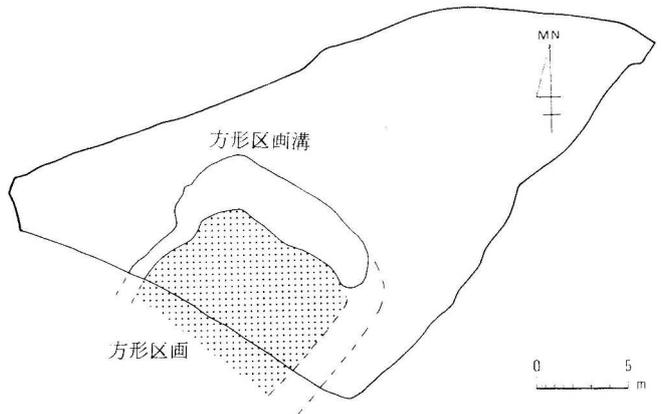


図8 平岡西遺跡 溝模式図